

『気象観測レーダー』に行きました

みなさんこんにちは。そちらでは初雪の便りが聞こえているそうですね。こちら5月に始まった雨季が終わりに近づいています。先輩諸氏に聞いたところ「雨季終わりは突然の豪雨や雷雨が多い」とのことです。vol.2 でみなさんにご紹介したような天候が最近多いです。…確かに言われてみれば、雨季の中頃は紹介したような激しい雨は少なかったように思います。なぜこうなるのか疑問がわいたので、来年の雨季までに調べてみようと思います。毎日色々なことを体験・発見できるので、知的好奇心がどんどん大きくなっているのが自分でもわかります。忙しいですが幸せです。

さて、今回ご紹介する話は先ほど話していた「天気」に関する事柄です。タイトルにもある通り、ヤンゴン市内にある『気象観測レーダー』を学校の授業で見学してきました。ちなみにヤンゴン日本人学校がこの施設を見学するのは初めてのこと！国有の施設のため普段立ち入ることはできないこの施設をどうしても生徒に見せてあげたく、首都ネピドーまで書類を送り、色々手を尽くして…なんとか見学することができました。本当にラッキーでした。しかし…実は今回の施設訪問には、ちょっとだけ個人的な思い入れがあります。というのも、実はこの施設のことを私は日本にいる時から知っており、「ミャンマーにいる間に絶対行きたい！」と熱望していたからです。私は日本にいた頃、毎週テレビ東京系で放送されている「未来世紀ジパング」を見ていました。その2016年11月7日の放送でこの施設が取り上げられていたのです。奇しくもその1か月後に校長先生からミャンマーに行くことを告げられた私は、「この縁を絶対いかそう」と心に誓い、ミャンマーへと飛び立った…というわけです。



この施設、実は日本のお金でできています。JICAの無償資金供与と政府開発援助により40億円以上のお金をかけて作られたものです。1台は私の住んでいるヤンゴンに、そしてミャンマー東部のマンガレー、西部のラカインと計3カ所のレーダーを設置することでミャンマー全土をほぼカバーすることをねらいとしています。レーダーでは雨雲や空気中の水蒸気、気圧などの変化を感知することで、台風などの自然災害を察知するというものです。なぜこれが作られたのかというと…ミャンマーの「天気予報」によるところが大きいです。日本の予報は様々な機器を駆使してデータを



を収集し行われています。それでも精度は80%ほどだと聞きます。しかし、ミャンマーの天気予報は「観測所でのデータ収集」のみ！使っている道具も写真にあるように、かなり年季の入ったものばかりです。そのデータを人が無線で報告を聞き入力する形なのでここでもミスが多いとのこと。ですので、ミャンマー国内で発表される天気予報の精度はかなり低く、それもあってか2008年にナルギスという巨大サイクロンがミャンマーを直撃した時甚大な被害となってしまいました。つい先年まで軍事政権下だったミャンマーでは日本的な気象データ収集のノウハウがなく、そういう経緯からこの施設が建てられたそうです。同施設内には日本式のデータ観測器と自動でコンピューターにデータを送るシステムも作られていました。まだ運用箇所が少なくこれだけでは予報ができませんが、1日も早くこのシステムがミャンマー国内に普及し、正確な予報ができる日がくればいいなと思いました。



この施設を見学した本校生徒からは「やっぱり日本はすごいだね」という言葉が多く聞かれ、外国から「日本」をみせてあげることができ、とても嬉しく思いました。見学のための手続きには結構骨が折れましたが、充分すぎるくらいの成果だったと思います。こちらの子供達に、色々な機会を使いもっと「日本」を見せたいなと強く思いました。

それではまた来月、こちらでの生活を報告します。

